

各日常生活圏域 協議体 開催状況

【資料3】

圏域	日時	メンバー	ねらい	協議事項	検討事項・見えてきたこと	今後、地域住民と進めるべき事項	コーディネーターの感想
谷津	平成30年 3月1日	・キャラバンメイト ・民生委員・高齢者相談員 ・町会 ・介護事業所 ・医療関係者 ・薬剤師 ・生協 ・新聞販売所 ・警察署 ・中学校 ・社会福祉協議会	自分たちが身近にできることを考え、地域理解を深めて支え手を増やしていく	・認知症で徘徊する女性が施設入所した事例を参考に、できるだけ地域で暮らすためにはどのようにしたら良いかを検討 ・協議体の設置に向けての協議 参加者について: 町会、認知症患者と家族、幼稚園や小学校の保護者、警察、福祉・医療の専門職、商店街、新聞配達員、金融機関、美容院、民生委員・高齢者相談員、福祉施設・病院 協議すべき内容の方向: 認知症の周知、交流の場、日々の困り事、体操を行える場所	・地域事情や住民感情による希薄さ 転入者の多いマンションでの関係の希薄さ、情報が入りにくい。 挨拶を返さない。認知症を疑う高齢者に対し声の掛け方がわからない。 高齢者への知識不足。地域でやっていることを知らない。 世代を超えて、認知症のことを学べる機会を作り、実際に交流することが出来る場所(福祉施設等)で体験する。マンション内に集いの場を作る。	認知症の方が地域で暮らせるような取り組みを協議 ＜認知症の周知、交流の場、日々の困り事、体操を行える場所＞	・参加者は、認知症のことや、歳をとってからの生活のしずらさについて、問題意識が高く意見が活発であった。 ・普段から高齢者や認知症の方に接している方が考える地域づくりの出発目線と、認知症に接することが無い方が考える地域づくりの出発目線が異なるが、後者の方が関心を持って地域づくりに参加し行動を起こしてもらえるよう普及啓発を行っていく必要がある。
秋津 (前回協議会で説明済み)	平成30年 12月20日	・介護事業所 ・医療関係者 ・薬剤師 ・新聞販売所 ・町会 ・中学校 ・警察署 ・民生委員・高齢者相談員 ・社会福祉協議会	認知症高齢者が住み慣れた地域で安全に安心して暮らせる地域づくり 高齢化率が高く独居高齢者が多い地区。サロンに通うにも支援が必要	習志野市で行っている見守り・緊急情報について理解し、今後のあり方についてグループワーク・発表 ・行方不明者の行政防災無線についての意見交換 ・認知症高齢者への地域での見守りについての意見交換	日頃からの地域での見守りが大切である、という観点から、高齢者と地域との関係性の築き方など、地域住民や関係機関等とどのような支援ができるのかを探ってきたい。 行方不明者の捜索は、その方を知らないという難しい。情報として、よく行く場所・話し方・歩行状態等があると良い。行方不明にならないよう、近所とのつながりが必要である。	(同左) 日頃からの地域での見守りが大切である、という観点から、高齢者と地域との関係性の築き方など、地域住民や関係機関等とどのような支援ができるのかを探る。	・認知症高齢者の見守りについて現状を理解していただき、何が出来るのか、様々な立場の方達から、率直な意見が聞かれ、活発な意見交換ができた。 ・今後、見守られる人となり得る方の視点についても話題を提供していきたい。
津田沼・鷺沼	平成30年 2月5、6日	・民生委員・高齢者相談員 ・薬剤師 ・医療関係者 ・社会福祉協議会 ・ケアマネジャー ・地域活動員 ・シニアサポーター (市主催の養成講座受講者)	これまでの地域ケア会議(ネットワーク会議)で抽出された地域課題を掘り下げて話し合い、具体的な意見を出していく。	・グループワーク(前年度に出た地域課題から「つどい」と「家事援助・外出支援」のカテゴリーに分け3グループずつ話し合いをした。KJ法 ①どのようなことまでなら協力できるか②ここにいない人で誰の協力があつたらいいか③何があれば解決の糸口がつかめるか	「つどい」 ・担い手不足、もしくはリーダー不在 ・場所の不足 ・町会の理解 ・運営費用 「家事援助・外出支援」 ・まず地域交流、関係づくり ・保険や補償・担い手支援 ・運営のノウハウ	「つどい」 ・場所の確保:コーディネーターとして地域を把握し、店舗などへの交渉に努める。 福祉施設への協力の投げかけ ・町会に対し、民生委員等がつながっている地域から協議を進めていく。 ・若い世代層の取り込み 「家事援助・外出支援」 ・シニアサポーターとのネットワークづくり	・テーマを絞り込み、具体化したことで深い話し合いが出来た。 ・実際に、「ちょっとしたことなら手伝える」と言う方の把握ができた。 ・今後も、同規模の協議体を開催し、徒歩圏内に何もない地域に的を絞って検討する等、地域密着な協議体を運営したい。
屋敷	平成30年 2月27日	・高齢者相談員 ・民生委員 (地区会長・副会長) ・社会福祉協議会支部 ・社会福祉協議会 (第1層生活支援コーディネーター)	高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らすためにできること 各関係機関が行っている活動状況の共有・顔の見える関係の構築	1.高齢者相談センターの業務について<紹介> 2.第2層生活支援コーディネーター及び第2層協議体について<紹介> 3.全体の情報・意見交換 ・サロンの開催状況 ・高齢者の見守り ・ボランティアの考え方 ・地域の集いの拠点	・集いの拠点が少ない。既存のサロン等には固定メンバーが参加している。 ・担い手不足や高齢化・活動場所の閉鎖(公民館)のため、存続が困難な予測 小規模でも、店舗の空きスペースや商店街等、場所を開拓し、立ち上げに向けた後方支援を行う必要がある。	1. つどいの拠点となるスペースの把握 商店街やスーパー、個人店舗などに働きかけ、開催場所として活用しうるかの検討。 2. 担い手となる人材の発掘 地区ごとに、呼びかけたい人、キーとなりそうな人材への働きかけ、ネットワーク構築。 3. 地区ごとの地域課題、ニーズの把握 町会単位、自治会単位での課題を、地域住民とともに分析をし、住民主体のサービスにつなげる。	共通する思いもあり、活発に意見交換ができた。継続的に会議を開催し、連携できる関係づくりに努めたい。 会議の進行方法、テーマを検討していきたい。
東習志野	平成30年 3月14日 5月16日	・社会福祉協議会 ・民生委員、高齢者相談員 ・生活協同組合 ・コンビニエンスストア ・配食サービス事業所 ・社会福祉法人 ・居宅介護支援事業所	第1回 ワークショップの意義や学習テーマの理解、共有 ・圏域の状況を知る ・次回のテーマを決める 第2回 買い物資源 ・コンビニや生協ができること ・高齢者の買い物の状況 次回のテーマを決める	第1回 ・数字で見る圏域の状況 ・グループワーク 「高齢者の困りごと」「地域の困りごと」 「重要度×緊急度」の指標で振り分け 選んだ課題に対し「自分でできること」「あつたらいいな」 課題は、「買物」となった。 第2回 「買物」をテーマに ・買物弱者対策についての理解 ・企業等の取組み パルシステム セブンイレブン 宅配クック1・2・3 めくもり ・高齢者の買物ニーズ アンケート、ケアプラン分析 ・グループワーク「地域の資源を共有しよう」 75歳以上のひとり暮らしの人が買い物に困りやすく、「荷物の持ち運び」「お店までの距離」の順に困る傾向にある。	第1回 コンビニにできることは結構ある、移動販売も採算に困難な問題があるなどの意見があり、販売事情や取り組みについて知らないことがあることが分かった。⇒ 次回へ 第2回 対応 社会資源を分かりやすくまとめたものの作成 付添支援・移動支援・買い物同行等資源の把握	(同左) 社会資源を分かりやすくまとめたものの作成 付添支援・移動支援・買い物同行等資源の把握	第1回 ・マトリクス自己紹介では参加者同士の会話が弾み、関係が深まるきっかけになった。 ・次回のテーマの絞り込みが出来た。 第2回 社会資源を必要とする人にどのように伝えていくか、という一つの方向性として見出せた。